

## 業績ハイライト

## 決算の概要 (単体)

単位：億円

9年ぶりの増収増益

	26年3月期	25年3月期	増減
経常収益	379	375	+4
業務粗利益	302	293	+9
経費	217	214	+3
実質業務純益	85	78	+7
ネット与信コスト	25	28	△3
その他臨時損益	3	△4	+7
経常利益	63	45	+18
法人税等合計	28	20	+8
当期純利益	34	24	+10

(注) 1. 実質業務純益=業務粗利益-経費  
2. 増減は表上計算

## 決算の概要 (連結)

増収、利益は子会社（りゅうぎん保証）の議決権比率引上げの影響などにより大幅増益

単位：億円

	26年3月期	25年3月期	増減
連結経常収益	399	393	+6
連結経常利益	74	56	+18
連結当期純利益	49	27	+22

(注) 1. 平成26年3月、琉球リース株式を一部保有していたりゅうぎん保証株の株式を追加取得し、議決権比率を引上げ  
2. 平成26年4月、持分法適用会社である琉球リースの株式を追加取得し、議決権比率が49.96%となったため、同社を連結子会社化  
3. 増減は表上計算

単位：億円

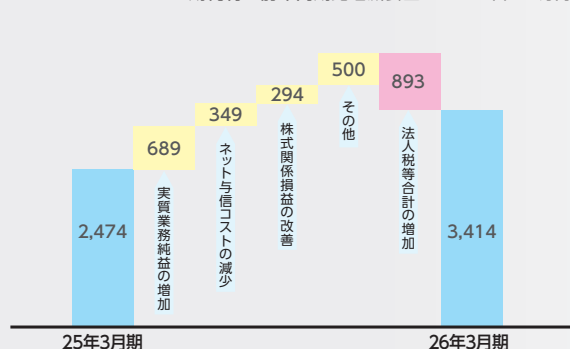
## 【議決権比率引上げに関連した子会社等の状況】

会社名	当期純利益 (26年3月期)	純資産 (26年3月期)	議決権比率	議決権比率引上げに伴う 連結利益への影響
りゅうぎん保証株	3	22	5.00%⇒96.15% ※H26.3.19より	11 (負ののれん発生益)
琉球リース	5	37	4.98% (当行保有分) 15.21% (りゅうぎん保証保有分)	4 (持分法による投資損益)

## 当期純利益の増減要因 (単体)

実質業務純益の増加を主因に当期純利益は増加

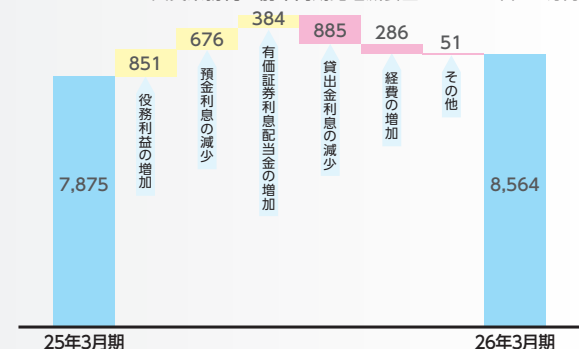
当期純利益前年同期比増減要因 単位：百万円



## 実質業務純益の増減要因 (単体)

役員利益の増加、預金利息の減少を主因に実質業務純益は増加

実質業務純益前年同期比増減要因 単位：百万円



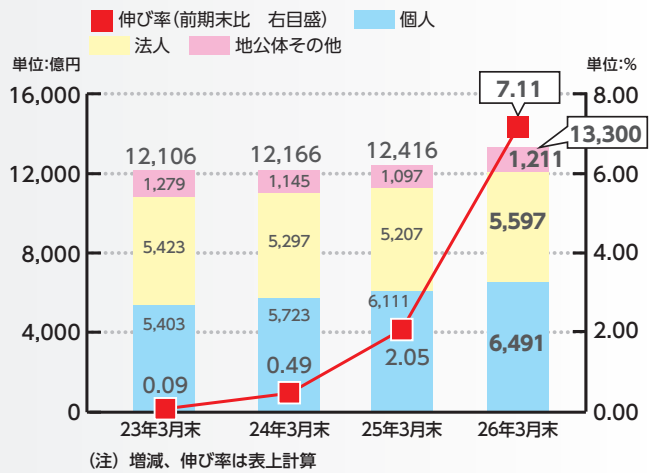
# 業績ハイライト

## 貸出金（単体）

個人、法人、地方公共団体向けともに増加し、1兆3,300億円を突破

消費者ローンが住宅ローンやカードローンを中心に引き続き好調に推移し、事業性貸出もアパート資金等の不動産業向けや医療・福祉向けを中心に増加したほか、地方公共団体向け貸出も好調に推移したことなどから貸出金残高は前期末比884億円増加の1兆3,300億円となりました。

貸出金残高（末残）の推移

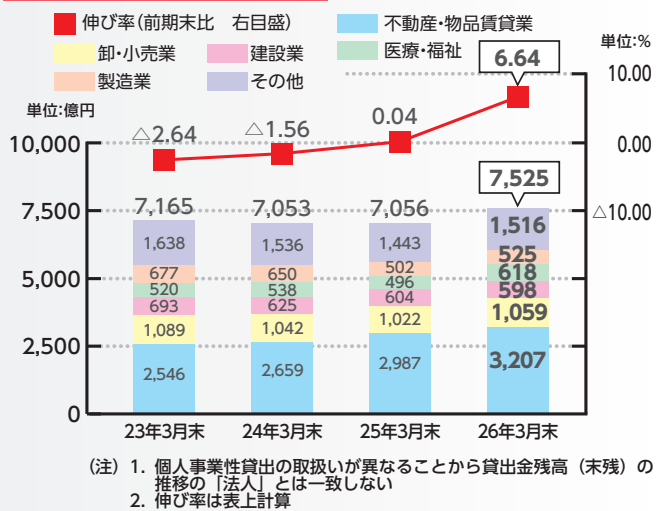


## 事業性貸出（単体）

アパート資金等の不動産業向けや医療・福祉向けを中心に増加

アパート資金等の不動産業向け貸出が引き続き好調に推移したほか、医療・福祉向け貸出が増加したことから事業性貸出は前期末比469億円増加の7,525億円となりました。

事業性貸出（末残）の推移

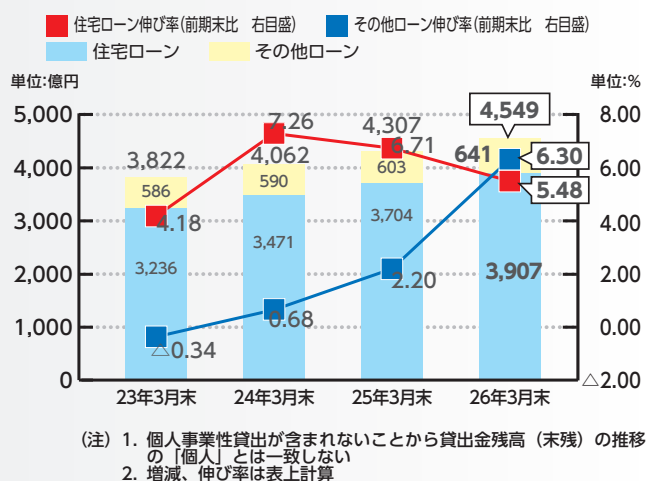


## 消費者ローン（単体）

住宅ローン、その他ローンともに増加

住宅ローンが引き続き好調に推移したほか、カードローン、マイカーローン、教育ローンなどのその他ローンも好調に推移したことから消費者ローンは前期末比242億円増加の4,549億円となりました。

消費者ローン（末残）の推移

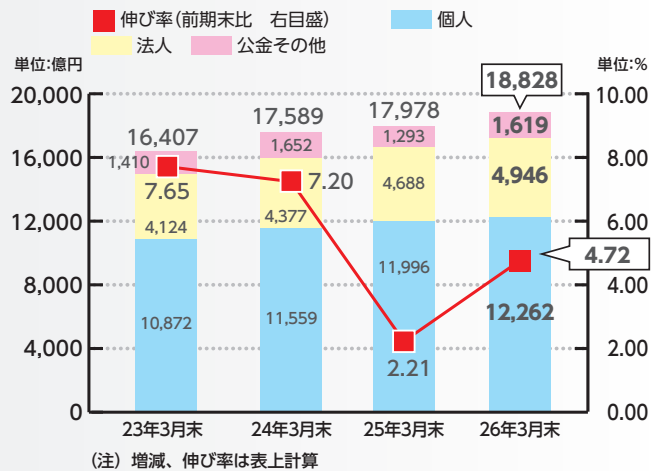


## 預金（単体）

### 個人・法人は好調を維持、公金は指定金融機関の交替により増加

個人預金が退職金や年金資金、賞与資金の受入などにより引き続き好調に推移し、法人預金も流動性・定期性預金ともに増加しました。また、公金預金が指定金融機関の交替により増加したことなどから預金残高は前期末比850億円増加の1兆8,828億円となりました。

### 預金残高（末残）の推移

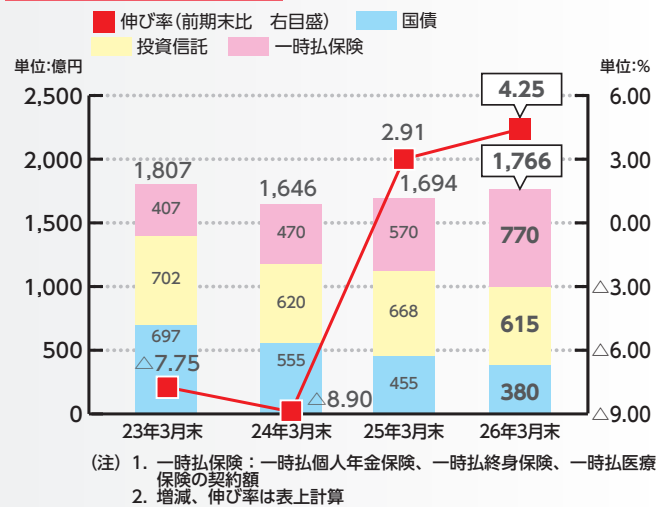


## 預かり資産（単体）

### 保険販売が好調に推移し、預かり資産残高は増加

預かり資産推進体制の強化により、一時払保険の販売が好調に推移したことなどから預かり資産残高は前期末比72億円増加の1,766億円となりました。

### 預かり資産残高の推移

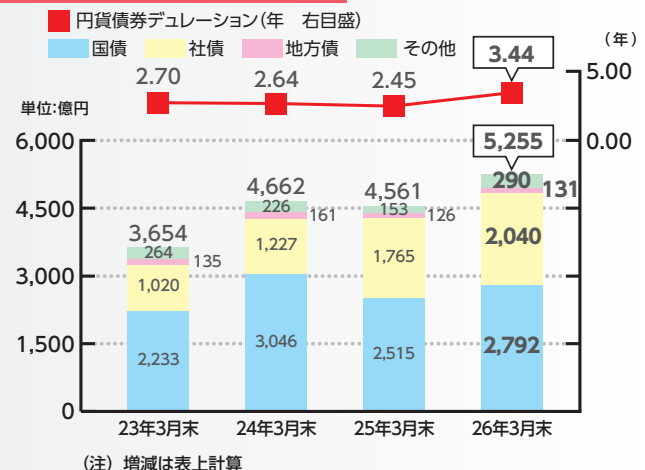


## 有価証券（単体）

### 国債、社債を中心に残高を積み増し

国債や社債（公社公団債・事業債・金融債）を中心に積み増し、有価証券残高は前期末比694億円増加の5,255億円となりました。

### 有価証券残高（末残）の推移



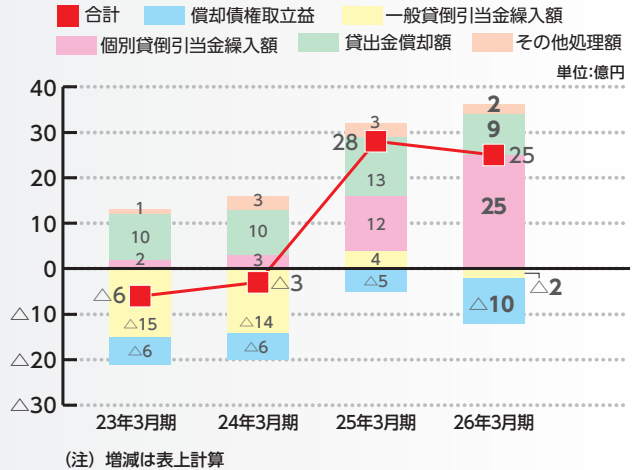
# 業績ハイライト

## 与信コスト (単体)

### 巡航速度的水準で推移

個別貸倒引当金繰入額は増加しましたが、一般貸倒引当金の戻入、貸出金償却額の減少、償却債権取立益の増加などからネット与信コストは前年同期比3億円減少の25億円となりました。

### ネット与信コストの推移

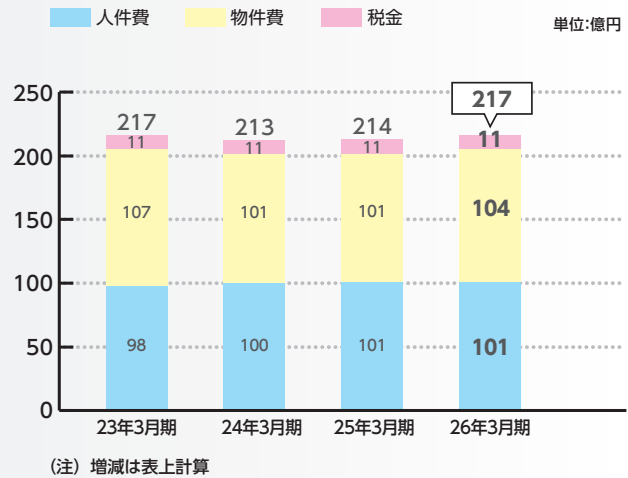


## 経費 (単体)

### 物件費が増加

資金量増加による預金保険料の増加、PC更改900台や新店舗関連費用等物件費の増加などから経費は前年同期比3億円増加の217億円となりました。

### 経費の推移

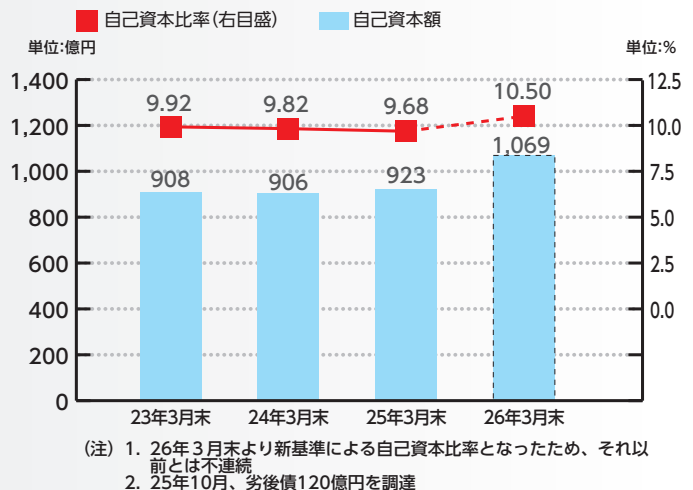


## 自己資本比率 (単体)

### 自己資本比率は安定的に推移

バーゼルⅢの新基準で、自己資本比率は10.50%を確保しています。

### 自己資本比率の推移



## 27年3月期業績予想（単体）

### 当期純利益は25年度並み

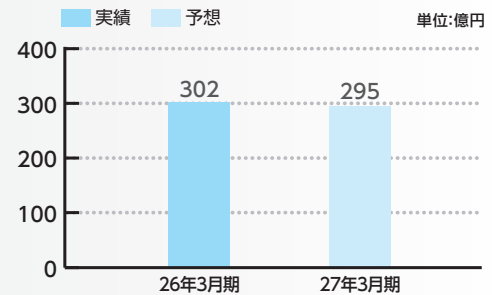
貸出金利回りは低下するものの、役務利益の拡大により当期純利益は25年度並みを見込んでいます。

単位：億円

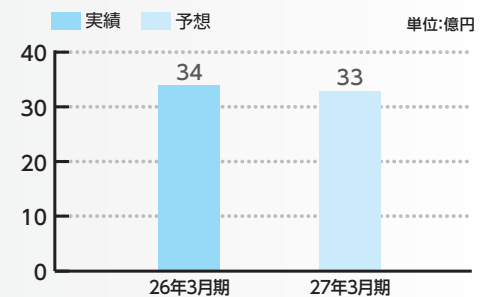
	27年3月期予想	26年3月期実績	増減
業務粗利益	295	302	△7
経費	222	217	+5
実質業務純益	73	85	△12
ネット与信コスト	25	25	0
経常利益	53	63	△10
法人税等合計	19	28	△9
当期純利益	33	34	△1

(注) 増減は表上計算

### 業務粗利益の実績と予想



### 当期純利益の実績と予想



## 27年3月期業績予想（連結）

### 当期純利益は小幅減益

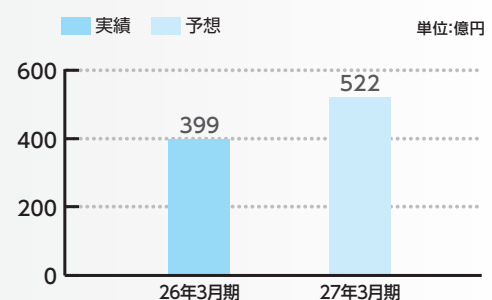
琉球リースの連結子会社化により大幅な増収となりますが、特別損益の減少により当期純利益は小幅な減益を見込んでいます。

単位：億円

	27年3月期予想	26年3月期実績	増減
連結経常収益	522	399	+123
連結経常利益	67	74	△7
連結当期純利益	46	49	△3

(注) 増減は表上計算

### 連結経常収益の実績と予想



### 連結当期純利益の実績と予想

